

花や実などの自然物や身近な材料を使って、自然の不思議さに気付かせる工夫
～あさがおのつるを使ったリースの制作を通して～

日立市立中小路小学校

1 はじめに

本校では、「確かな学力をもち 心豊かに たくましく生き抜く児童を育成する」の教育目標のもと、「主体的・対話的で深い学びを積極的に展開し、学力の向上を図る。」というテーマで学校課題研究を行っている。生活科では、「児童の実態や地域の特性を生かし、具体的な活動や体験を通して自立への基礎を養う指導の工夫改善に努める。」ことを努力目標としている。

校庭や近くの児童公園で秋のものを集め、友達とかかわり合いながら、制作活動を広げたり深めたりする活動を通して、楽しく学びながら自然の不思議さに気付けるような学習を展開したものである。

2 指導案等

(1) 単元名 あきと ふれあおう

(2) 目標

① 身近な自然に関心をもち、それらとかかわる活動を行うなどして、楽しく生活しようとする。

(生活への関心・意欲・態度)

② 花や実などの自然物や身近な材料を使って、工夫して作品を作ったり遊んだりすることができる。

(活動や体験についての思考・判断)

③ 夏に比べて、身近な自然の様子が変化したことに気付くことができる。(身近な環境や自分についての気付き)

(3) 指導にあたって

本単元は、学習指導要領の内容(5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものである。身近な秋探しから始め、校庭や近くの公園へ出かけて行き、諸感覚を使って秋を感じたり、遊んだりしながら秋の自然と親しむ。さらに、集めてきた落ち葉や木の実、草花などを生かし、自然と直接かかわりながら遊ぶことを通して自然の不思議さに気付く。また、集めてきた落ち葉や木の実、草花を使って、制作活動をする。友達に「うまくいったこと」や「工夫したこと」を伝え合いながら、豊かに表現する場を作ることができる。

本学級では、どんぐり遊びでいくつかの経験のある児童と、全く経験のない児童が約半数ずついることがわかった。生き物の様子や植物の様子、天候などから、秋を的確に感じている児童が多くいることもわかった。しかし、一方では夏と混同していたり、季節をあまり意識しないで生活していたりする児童もいた。このような児童の実態から、自然と多くふれ合うこと、いろいろな遊びを体験できるようにすることを重視して本単元を進めていきたい。

身近にある自然を利用したり、遊びに使うものを工夫して作ったりすることを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊ぶことを楽しむことが重要である。一人一人の思いや願いを生かした多様な遊びを行い、それを互いに響かせ合い、高め合う学習活動を展開することが大切である。また、「比べる」「繰り返す」「試す」などの活動を積極的に取り入れていくことで様々な気付きが期待できる。最後に、学習したことを振り返る活動で、カードや作品をもう一度見直し、秋を使って遊ぶ物を作ったことに対する成就感を味わわせたい。

(4) 本時の指導

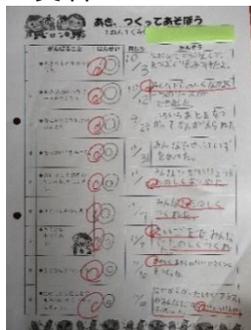
① 目標

ア 集めてきた松ぼっくりやどんぐりなどを使ってリースを作り、その楽しさに気付くことができる。

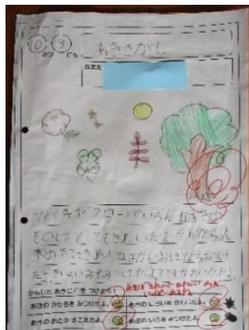
② 展開

予想される児童の活動	配慮事項と評価(△個への対応 ◎評価)
<p>1 本時の活動内容を確認、めあてをもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あさがおのつるで、リースをつくろう。</p> <p>2 リースを作る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;"><かつどうのやくそく></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからないところは、おしえあおう。 ・どうぐは、きめられたところでつかおう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ビーズをたくさんつけるときれいだよ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうしよう、うまくざりがつかないなあ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">リボンや飾る物たくさん持ってきたよ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見本を見て作るといいね。</p> <p>3 後片付けをする。</p> <p>4 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を見せ合う。 ・感想を発表する。 <p>5 次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動をもとに本時の活動を確認し、めあてをもてるようにする。 ・作ったり、飾ったり、試したりする場所を十分に確保する。 ・材料や道具を安全に自由に使えるように、場を設定する。 <p>△児童一人一人の進み具合を見ながら、働きかけるようにする。</p> <p><意欲的に取り組んでいる児童></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合ったり、助け合ったりしている児童を称賛し、みんなに紹介して意欲の向上を図る。 <p>△新しいアイデアを出し、熱心に制作している児童には、声をかけずに見守る。</p> <p>△作品が仕上がった児童には、試したり改良したりするように勧める。</p> <p><制作が進まない児童></p> <p>△技術が未熟でうまくできない児童には、手伝ったり、友達同士で教え合ったりするように働きかける。</p> <p>◎進んで松ぼっくりなどを使った創作活動に取り組むことができたか。</p> <p>【観察・活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使ったものは元の場所に返し、きちんと後片付けをさせる。 <p>◎秋の自然を利用したリースが作れて、楽しさに気付くことができたか。【発表・作品】</p>

3 資料



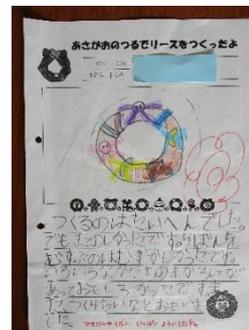
<計画表>



<児童公園への秋探し>



<秋の物で何を作るか>



<あさがおのつるでリース作り>

4 成果と課題

(1) 成果

友達が作った作品の鑑賞会や気付いたことを交流する会では、自分の言葉で具体的に伝えようとする児童の姿が多くみられた。また、友達の意見を認め合う姿もみられた。計画表を提示することにより、きっかけ(秋探し)→広がり(公園探検)→まとめ(作品づくり)と段階を踏んで学習を進めることができた。

(2) 課題

ワークシートによる振り返りが多い低学年にとって、ていねいにまとめられた児童の評価が高くなる傾向にある。